

緊急情報

大豆農事メモ号外 令和2年8月5日 JA松任、JA白山、JAのいち

高温による乾燥に今年は特に注意が必要です！

- 降雨で培土が遅れたほ場では、根張りが十分に確保できておらず、乾燥害を強く受けやすい状況となっています。
- 8月10日からはかなりの高温となる予報が出ています。(平年+2.3度以上)
- うね間かん水を適切に実施して、大豆への乾燥ストレスを軽減しましょう。

(参考) 向こう1か月の天候の見通し(8月1日~8月31日)

- 暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。
 - 平年に比べ、気温は高く、日照時間は多く、降水量は少ないでしょう。
 - 平均気温は高い確率50% 降水量は少ない確率40% 日照時間は多い確率40%です。
- 新潟地方气象台 令和元年7月30日発表

1. うね間かん水の実施で根・茎・葉ともに元気に！

開花期~子実肥大期(7月下旬~8月下旬)は最も水分を必要とする時期です

☆うね間かん水実施のポイント☆

- ① 開花期以降、3日以上晴天日が続いたら、土の乾き具合に応じて、うね間かん水を実施！
- ② かん水は短時間で行い、ほ場全体に水が行き渡ったら、速やかに排水しましょう。
- ③ うね間や額縁排水溝と排水口の連結を確認し、手直しを忘れずに行いましょう。



葉が巻いてからでは遅い！！

干ばつによる大豆への影響は・・・？

- 葉の裏返りや落花・落莢(らっきょう)などが目立つ。
- 根粒の窒素固定活性や光合成、根の養分吸収力の低下が大きい。

⇒これを避ける対策として、うね間かん水は非常に重要です。

2. 防除の徹底で収量・品質アップ！

1 ハダニの多発生に注意！

昨年も一部ほ場で、ハダニの発生が散見されました。発生が拡大する前に、発生ほ場では早めに随時防除を実施してください。(基幹防除の農薬では、ハダニを抑えられません。)

発生ほ場(初発)



↓発生ほ場は、ただちに下記を散布してください。

薬剤名	希釈倍数 (10a 使用液量)	使用回数	備考
ダニトロン フロアブル	1000~2000倍 (150~300 ㍓/10a)	1回	収穫7日前まで
ニッソラン 水和剤	2000~3000倍 (100~300 ㍓/10a)	2回以内	収穫7日前まで

発生ほ場(坪状に枯れる)



2 ウコンノメイガの発生に注意！

今後、ウコンノメイガの葉巻、食害に注意が必要です。早期に随時防除を実施し、被害を防ぎましょう。

☆ウコンノメイガ被害の特徴

7月上旬頃から大豆の葉に産卵し、ふ化した幼虫が大豆の葉を巻き、内側の葉を食害する。食害した後は別の葉に移動し、加害を繰り返す。



幼虫に被害された大豆の葉(葉巻)

幼虫の葉巻は、8月上旬から増加し、9月上旬頃まで続きます被害が大きくと減収につながるため、↓早期に発見し、下記を散布してください。



葉巻を広げた時の幼虫

薬剤名	10a あたり使用量	使用回数
プレバソンフロアブル5	100~300L 〔希釈倍数:4000倍薬量25~75ml〕	2回以内 (収穫7日前まで)
サイアノックス粉剤	4kg	2回以内 (収穫7日前まで)

- ① 防除の目安:大豆1茎あたり平均葉巻数6~8枚以上
- ② ほ場内で部分的に被害がある場合、部分防除も可能→散布面積を大きめに散布
- ③ 成虫は、生育が旺盛なほ場に産卵する傾向がある。
- ④ 被害葉の割合が80%以上になるとくず粒の増加や小粒化により50%減収となったケースもある。